

## 第24回京都市元離宮二条城保存整備委員会 摘録

日時： 令和4年9月14日(水) 午後4時00分～午後4時55分

場所： オンライン会議（事務局：二条城大休憩所レクチャールーム）

参加委員：

京都芸術大学教授 尼崎博正委員（座長）

京都女子大学客員教授 斎藤英俊委員（副座長）

京都大学教授 岩崎奈緒子委員

京都市行財政局参事 奥美里委員

成安造形大学学長 小寄善通委員

東海大学教授 小沢朝江委員（欠席）

京都大学名誉教授 根立研介委員

京都美術工芸大学特任教授 村上隆委員

オブザーバー： 京都府教育庁指導部文化財保護課（欠席）

事務局：

元離宮二条城事務所長 東山和之

文化市民局文化芸術都市推進室担当部長 山口壮八（欠席）

文化財保護課長 牧山安弥子

元離宮二条城事務所総務課長 鳥居将志

同 建造物保存整備担当課長 来本雅之

**議題：令和4年度の各部会の分担事項について（案）**

事務局：【資料議題、1-(1)～1-(4)に基づき説明】

尼崎：今年度の分担表について、何かあるか。

奥：分担で建造物部会となっている防犯、防災、情報設備について、防災というのは、外部の放水銃などではなく、あくまで建造物の中の自火報等でよかったか。

事務局：そうである。ただし、室内の自火報は設置をしているので含まれない。なお、外部にある放水銃、消火栓は点検を進めている。

小寄：透明雨戸のことだが、設置にあたり、室内から周囲の庭を見渡すことが想定できるが、一方で、庭からの外観も考慮にはいると思う。事務局はどう考えているか。

事務局：外観も含めて建造物部会でご検討いただきたい。

小寄：現状の雨戸を全部、京都御所のように紫外線を除去するアクリル板を嵌めるような形を想定しているのであれば、外からの見た目も影響してくるため、

建造物だけの確認でよいのか。

尼崎：建造物も外観からの景観を含めた検討はされるはず。ただし、景観に係ることで、もし問題があれば記念物部会からも知恵を出せるかもしれないので、柔軟に共有していける体制がよい。

小寄：記念物で問題なければよい。

村上：本丸御殿の照明やその影響への対策など、障壁画に係る事項は障壁画部会としてまとめるが、建造物の一部なので、最終的には建造物でまとめていただきたい。障壁画部会としては提言するという姿勢でよいのか、確認したい。

事務局：建造物に係る話なので、提言という形がいいかわからないが、建造物部会とは連携していく話だと認識している。

村上：もちろんそうだが、動線の事項など建造物用と障壁画用で分けているが、総合的には建造物の問題と認識しているがよいのか。

事務局：問題ない。

尼崎：運営の問題。各部会で共有できる柔軟性が必要。

斎藤：分担事項だけの情報を各部会で出すだけではなく、全体が知りたいので、他の事項についても報告事項等、資料の出し方を工夫してほしい。各部会も他の部会でも意見をいえるかたちをとってほしい。

尼崎：各部会が何を協議しているかの情報を開示しながらするという一方で、論議の途中でお互いの話を交換し、組み合わせるという方向でよいのか。

事務局：情報の交換については、工夫をさせていただきたい。

斎藤：障壁画の杉戸絵の黒変および白濁がみられたとのことだが、原因は、東京文化財研究所（以下、東文研）に調査委託しているということだが、その原因や、杉戸以外で紙本では悪影響はないのか。

事務局：杉戸絵の黒変等の原因については、PVA が散布されてから何層も塗り重ねられた問題もあり、複合的な要因と聞いており、はっきりわかっていない。各箇所について、現状分析をしている最中である。紙本については、将来的に解決できないほどの問題はない、という理解で問題ない。

小寄：私が理解している範囲では、ポリビニールアルコール（PVA）が戦後新しい技術として、二条城だけでなく、京都御所、智積院でも塗布されたことはよく知られている。それらが悪さをしている。杉戸以外にも襖絵にも入念に散布（塗布）されたという。施工がはじめて開始されたときは新聞記事にもなった。酵素等を用いながらどうやって修理していくか、東文研を中心に開始しつつあるという状況だと理解している。

村上：戦後、京都の文化財にかなり広範に散布されており、悪影響を及ぼすマイナス面もあるが、一方で、そのおかげで剥落を免れたという見方もある。杉戸絵については、PVA が相当こびりついており、東文研の方でしっかり

と実験的な調査研究が進められている。障壁画部会としては、一緒に共同で話し合う場を設けたい旨を申し入れている。

斎藤：ポリ塩化ビニールと理解しているが白濁なのか。桂離宮の昭和修理でも合成樹脂を用いて、色をのせるために、ポリ塩化ビニール系の塗装をして、白濁がでていた。原因究明中だが、ポリ塩化ビニールが粒子状になり、白く表出したのでは、と考えているがどうか。

村上：一概にすべて同じ状況とはいえない。黒変化もある。細かく解析していく必要があるが、実際にサンプリングして広範に調査するまで至っていない。大きな問題と認識しているし、二条城だけではなく戦後の文化財保存の抱える課題の一つとして捉える必要があると考えている。

斎藤：原因が分からないと対処方針が決められない。次の部会まで分かるか難しいですね。一方で、黒変化も塗装系の何らかの化学物質なのか。

村上：黒変化も一概に原因は言えない状況である。

尼崎：それに関する調査研究は、東文研で進めているのか。

村上：東文研で専門的に進めている。

尼崎：組織的に連携をとりながら可能ということか。

村上：我々も進捗状況を把握したいので、先ほどから申し上げているように、共同研究という訳ではないが、進捗を現場で確認したいと何度か申し上げている。

尼崎：つまり情報提供はできるということか。

村上：そうである。

小寄：今年度より、障壁画部会に東文研の方が新任の委員が入るのか。

事務局：早川先生に障壁画部会委員に参画いただいている。障壁画部会がはじまればご紹介したい。

尼崎：承知した。他にあるか。

奥：記念物部会で担当する予定の周辺段差解消といったハード面、二条城の全体の景観に係る話（透明雨戸を記念物部会でも、という話がでたが）、情報交換がうまくされるとよいと思った。

尼崎：情報共有の問題だが、今回で各部会の審議事項を決めて、他の部会では何しているか、ある程度どういう問題か、各部会へ情報が入っている状況の方がよいだろう。

事務局：各部会への分担は許認可を含め便宜上分けている点もある。どういうやり方があるかは工夫させてもらう。

尼崎：状況に応じた方法でよいと思うが、ある程度どのような議論をしているかは共有してほうが良いと思うので事務局で考えていただきたい。

事務局：検討は各専門部会でしていただくとして、各部会の開催順序等もあるの

で、必ずフィードバックは難しいかもしれないが、情報共有という点は、部会資料を配布するなど、何らかの検討はしていく。

尼崎：それでよい。あとはあるか。

斎藤：公開整備事業の件だが、一日何人入れる想定か。あるいは季節に応じた対応、人数の問題は、二之丸御殿に比べて華奢な建物なので、建造物の保存として重要な問題である。また、本丸御殿に上がりず庭だけを見る観光客もいると思うが、どの程度の人数が、いつ、どのくらい来るのか、ある程度事務局から数字を示してもらわないとこちらも判断できない。特に本丸御殿の廊下が狭いところもあるので、容量オーバーした場合の人数制限の仕方等、事務局から提示していただきたい。我々で数字の検討は難しいので。

尼崎：人数の想定はある程度されているのでは。

事務局：こちらも二之丸御殿と異なり、建物も小さく、廊下が狭いのは理解している。分担で、文化財への影響とその対策の部分で、建造物で協議いただきたい。状況によって数字もお示しする。

尼崎：数値的な状況など具体的話は部会で提示すること。他部会との相互の情報共有の仕方については、事務局に検討していただくということでまいりたい。では、今年度の分担事項はこれで皆さん承認いただけるか。

委員：了承。

尼崎：審議結果は本委員会で報告いただき、その間で重要な問題があれば、部会間の共有をすること。

事務局：緊急であれば、その都度。

尼崎：本議題はこれで終了する。その他でなにかあるか。

岩崎：全体の部会のスケジュール、タイミングなどは知りたい。

事務局：何らかの形で示せるような工夫はさせてもらう。

## その他

尼崎：他に事務局から連絡事項はあるか。

事務局：【説明】

岩崎：部会の共有のことだが、どこの部会がどのタイミングで進めているか、簡単な横の情報がみえるとよいと思った。

事務局：各部会の開催のタイミングもあり、どのようなかたちで共有できるかわからないが、工夫していきたい。

根立：外部資金調達について、クラウドファンディングなどは検討しないのか。一口城主だけで資金調達は大丈夫か。

事務局：一口城主は、本格修理等にあてていくことにしているが、ここ2～3年

はコロナの影響で入場者が減っている。どのように安定して資金を調達できるかはこちらも課題と思っており、委員の方にも御意見を頂戴しながら進めてまいりたい。

根立：是非検討をいただきたい。

奥：二之丸御殿の活用で特別入室等されているが、本丸御殿の活用がはなされていたが、本丸御殿の障壁画はとてもよいと思っているので、本物の絵のリアリティを示せるような工夫をお願いしたい。

尼崎：それでは議事を終了する。

以上